～つるに農事だより～

霜・ひょうによる被害

管内の霜・ひょう被害状況

霜による被害面積は、
・リンゴ　150.1ha
　（町作付け面積の13.3％）
・ブドウ　5.2ha
　（町作付け面積の5.4％）

ひょうによる被害面積は、
・リンゴ　227.5ha
　（町作付け面積の20.2％）
・ブドウ　26.6ha
　（町作付け面積の28％）

今回の霜・ひょうによる被害金額は、
・リンゴ　5億2千85万6千円
・ブドウ　2千926万8千円

※ブドウの場合、収穫時期にならないと今回の被害がどの程度影響したのか分からないため、詳細の算出ができない。そのため現時点より被害額が大きくなると予想される。

①6月2日（月）に開催された、「津軽ぶどう協会主催・降雹（ひょう）被害による現地講習会」の模様。
②6月15日（日）、衆議院議員・津島雄二代議士が来町。被害地を視察し、被害に遭われた農家の方々からの意見を聞き、中野町長と協力してこれからの対策にあたることを述べる。
③ひょう被害にあったリンゴの果実。1つの果実に20ヶ所以上の傷がついているものもある。下の写真は、傷が分かるよう表皮を手で剥いたもの。

「あるじゃ」が七周年祭を開催

六月二十日（金）～二十二日（日）、鶴田町の産地直売所の拠点でもある、道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」が七周年を記念して「七周年祭」を開催しました。

開催期間中、県内各地より二万四千人の方が来場し、鶴田産「ふじリンゴ」やマーク入り風船のプレゼント（※写真中）、朝市、五ツ太鼓など、さまざまなイベントを楽しみました。

また、「津軽半島道の駅連絡会」の六つの道の駅（浅虫温泉・なみおか・もりた・十三湖高原・こどまり・たいらだて）（※写真下）と一般の二十一店舗がテント村を開き、県内各地より地場産品を集め、市場より安い価格で販売。大好評で、大盛況な七周年祭となりました。

第一回「北地方産直の日」を開催

北五地方の産直施設が集まり、地元の新鮮な農水産物・加工品の販売を行います。県産スイカの試食（先着百名）もありますので、ぜひご来場ください。

◆日時　七月二十日（日）午前八時三十分～午後三時
◆場所　道の駅つるた『鶴の里あるじゃ』
◆主催
　北地方産直ネットワーク協議会
◆問い合わせ先
　西北地域県民局地域農林水産部
　農業振興課
（TEL34－2111 内線251）

6月13日、鶴田町農業支援センターに「鶴田町降霜降雹（ひょう）生産指導対策本部」（山本一郎本部長）を設置しました。

農業支援センターは、農業に関するさまざまな相談への対応や生産指導などを主な業務としています。今回、対策本部設置により、降霜・降雹（ひょう）被害に遭われた方々への対応を重点的、優先的に取り組みますので、相談や生産指導など必要な方は、下記の連絡先までご連絡ください。

◆開　設　日　　平日午前8時30分～午後5時15分まで
　（土、日、祝祭日は休み）

◆問い合わせ先
　産業観光課
　農業振興班
　TEL22－2111
　（内線291・292）
　また、鶴田管内各ＪＡ支店でも問い合わせを受け付けております。